

【主な意見】

◎課題整理について

(委員)

・課題整理のところでスポーツボランティアに参加する人が減っているとありますが、どれぐらの形で減少していますか。

(事務局)

・資料4にお示しをしておりますとおり、スポーツボランティアで1番大きい「さが桜マラソン」を掲載しております。さが桜マラソンにつきましては、直近で比較しますと、令和4年と令和5年になりますが、この数字から見えますとおり、400名ほど減っている状況です。この理由としては、多くが、地元の自治会の方がボランティアにご活躍してもらっておりますけども、高齢化に伴い、なかなか参加できる機会が少なくなったというもの、また団体でお申込みされていたのがコロナ禍により個別で活動される方が増えたということ、それによりボランティアの総数が減っている状況です。

(委員)

・目標達成のための成果指標で「スポーツが好きな小中学生の割合」というのは継続をされると思うのですが、これに対する具体的な課題というのが、今の課題整理には入っていないように感じて、全体を広く捉えると、小中学生のところにも対象になってくるのだろうとは思いますが、ただ具体的にここの部分は入れたほうが目標を達成するための何か行動につながってくると思いますが、何か考えられているところがあれば教えていただければと思います。

(事務局)

・成果指標につきましては(資料1の1番左下)現成果指標ということで、第2次成果指標ということになり、第3につきましては、このままいくのか、どうするのかっていうところはまだ決まっていないところです。ただ、幼少期からというところは意識した何かしら記載しているのは必要かなとは思っていますので、この課題整理した文言自体が計画のほうにそのまま載ってくるとかいうことはありませんので、こういった背景、問題意識から次の具体的施策・取組というところに進んでいくということですので、御意見を踏まえた上で、この後の具体的施策・取組を、事務局のほうで整理したいと考えております。

(委員)

・するスポーツで、部活動の地域移行がありますが、これは、確かにするのは中高生かもしれませんが、どちらかという支えるの方に入るんじゃないかなと思います。他のところが例えば佐賀市であったり、スポーツ推進に関わる人が佐賀市の皆さんがスポーツをする方が増えて欲しいという事ではあるんですけどその主体者となる人が何か違うような気がします。

(事務局)

・地域移行に関しましては委員さんがおっしゃるとおり支えるのスポーツという意見もあるかと思いますが、する側の子どもたちであるとか、そういった方から考えますと、やはりするにも該当しますし、支えるの方にも該当すると、両方の側面があると思いますので、両方に課題として掲載しています。

(委員)

・質の高い指導を行うための資格を持った指導者が不足していると支えるスポーツのところにありますが、資格を持ったというのは、必ず入れなければならない文言になりますか。もちろん、今は資格を持っている人じゃないとベンチに入れないとかで、それなりの資格を持ってないといけないようになっていますが、地域を支えるというときに、資格を持ったっていう文言が入ってたほうがいいんでしょうか。

(委員)

・私は総合型スポーツをやっていますが、中学生の部活のうち、移行だった場合、やっぱり資格を持った指導者がいないと、部活の受皿にはなれないというのがあって、今、うちのクラブの中で、バドミントンの方に資格を取ってもらいました。だから、そういう意味も含めて支えるという意味で入れているのかなあと思います。

(事務局)

・資格を持った指導者が質の高い指導を行うためということで、より良い指導を行う指導者の確保というのがスポーツを支えるというところに繋がるとお思いますので、そういった意味も込めて課題整理で記載しています。

(委員)

・資料1に、外国人のことを挙げていますが、外国の方の留学生とか、外国の方が佐賀で働いている方のスポーツを行う環境づくりということで提案しています。この背景には私が福祉施設に勤務をしております。そこで、いろんな会合で勉強される方とかが実習に来られます。外国人の方ばかりです。そういう、外国の方が留学をされて、勉強されて実際社会福祉の仕事で佐賀県でも働いておられます。生活する上で、スポーツは大事なことなので、住みやすい佐賀市の一員になっていただけるためにも外国の方に目を向けた取組もあっていいのかなと思います。

(事務局)

・地域移行関係で佐賀市のホームページに社会体育のクラブ、一般と小中学生も入れるクラブをホームページにアップしております。そこのクラブを見て、スポーツ振興課に電話かかってきて、クラブを紹介している状況にあります。日本語で書いていますので、外国の方には届いていないのかなという部分を感じましたので、そういう外国の方とか留学生の方たちにも届くような形で何らかしていきたいと思っております。